

【安口】



【川原】



【福住】



国の重要伝統的建造物群保存地区選定10周年 ～福住の町並み～
町並み保存のこれまでとこれから

重要伝統的建造物群保存地区制度とは

伝統的建造物群および周囲の環境が一体をなして形成している歴史的風致を維持するため、伝統的建造物群を文化財としてとらえ、その周囲の環境と合わせて保持するための制度です。

その中でも特に価値の高い地区を国が重要伝統的建造物群保存地区として選定しています。

景観を守るために、重伝建地区では建物の修理や新築する際に制約がかかりますが、一方で補助金などの助成が受けられます。



修理前



修理後

建、瓦葺もしくは平屋建、茅葺で構成を配置。中門付きの前庭を設けるなど、落ち着いた街道景観が形成されています。

また、重伝建地区内には、保存対象となる主屋や土蔵などの建築物が1500件、門や塀などの工作物が52件、水路や庭などの環境物件が21件あり、街道沿いに宿場町と農村集落の景観が併存する全国的にも貴重な町並みとして、高く評価されています。

重伝建地区の選定から10年。福住地区では現在、町並みの美しい景観を維持するため、補助金を活用しながら、町並みの整備が進められ、これまで、35件に及ぶ建物の修理・修景が行われています。

(※1) 人馬の継ぎ立てをし、駅使に宿舎、食料を提供した施設

(※2) 丹波篠山から京都へ向かう街道

古代から続く
交通の要衝

かつて、京都府側から兵庫県側へと入る交通の要衝の地であった福住地区。古代には山陰道の駅家(※1)が置かれ、江戸時代には篠山藩が西京街道(※2)の宿駅に指定したことで、宿場町として栄えてきました。

明治維新に伴い宿駅の制度が廃止され、明治時代以後、鉄道・道路網の整備が進み、京都鉄道、阪鶴鉄道が開通したことで福住の旅籠や商店は廃業していきました。また、国鉄篠山線の廃止も福住の経済的な発展に影響を与えました。結果として福住は開発の波にのまれず、今日まで町並みが残されました。

歴史ある地域の町並みを保存しようという地域の人々の町並み保存への強い思いとその町並みの価値が認められ、平成24

(2012)年12月には、兵庫県で4力所目、市内では篠山城下町に次ぐ2力所目として、国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)の選定を受けました。

貴重な町並み

重伝建地区の対象は、福住、川原、安口、西野々地区のそれぞれ一部、8つの自治会から構成されています。また、その範囲は東西約3260m、南北約460m、面積約25・2畝となっています。

江戸時代に宿場町として整備された福住では、ほぼ中央に本陣、西端に脇本陣が配置。西京街道に沿って妻入りで瓦葺きの屋根を基本とした家屋が立ち並んでいます。一方、川原、安口、西野々は、宿場の機能を補完する農村集落であったと考えられ、街道から1m以上後退して主屋(つし二階

福住地区の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され10年を迎えます。

今回は、歴史ある町並みを守るためのこれまでの歩みや、未来へつなぐ取り組みを紹介します。

問い合わせ 文化財課 ☎552・5792

古民家を利活用し開業された店舗



MAGNUM COFFEE
ふるしゅうとしほる
古荘利治さん

2018年1月に芝居小屋を改築してオープン。当初は焙煎所(豆売り)だけを考えていましたが、場所も広く、景観も良いので、コーヒーをみんなにも飲んでほしいなと喫茶店に。観光地ではなく、みんなが生活しているこの場所がとても気に入っています。



なりとぱん
いせなりと
伊勢成人さん
・千佳子さん

パン屋を営んでいましたが、取引先のMAGNUM COFFEEが福住で開業され、パンを届けるようになりました。何回か通っていると、どんどん知り合いもでき、このまちが好きになり、2020年に店をオープンしました。地域の方はとても温かく、とても暮らしやすいです。



自転車工房ハイランダー
むらかみだいすけ
村上大輔さん

最初は、自転車ツアーの拠点だけを作る予定でした。でも、いろいろなご縁があり、かつて旅籠だった家をお借りし、2019年6月に開店。子ども向けの自転車販売をメインにしています。お店を取り囲む環境として福住は最高だと思います。



こうした地域の活動が実を結び、今日の福住地区では、県内外から多くの観光客が訪れるとともに移住者はすでに約50人を超え、市外からの移住希望者が途絶える気配はありません。

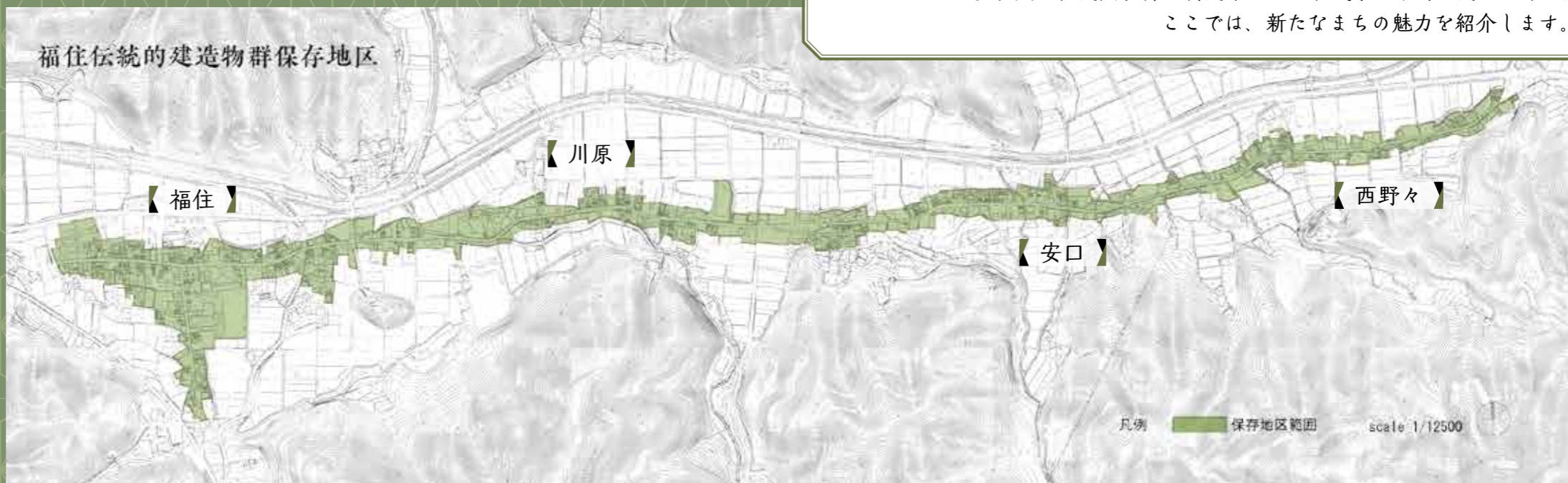
背景には、仮住まいのできるお試しの古民家住宅を提供したり、都会の子ども向け農業小学校「福の里農業小学校」を開設したりするなど、福住地区の魅力を発信し続けてこられた保存地区の皆さんのひたむきな活動があります。

この10年でその数は徐々に増え、古民家ホテル、コーヒー焙煎所兼カフェ、クラフト雑貨ショップ、地ビール醸造所、無農薬パン製造、自転車工房など、約30もの店舗が立ち並び、ありし日の宿場町を思い起こすような賑わいが生まれようとしています。

重伝建地区選定以降、福住地区は徐々に整備され、宿場町と農村集落が混在する歴史ある町並みには、地域の皆さんが安心・安全に暮らせる住環境が整い始めました。そして、イタリアンレストランや吹きガラスの工房、古民家のゲストハウスなど、都市部から移住した方たちの開業が相次ぐようになりまし。

あたたかな交流のあるまちへ

重伝建地区選定以降、街道沿いでは古民家の活用が進みました。ここでは、新たなまちの魅力を紹介します。



- ①正月に行われるフクノカミ(キツネガエリ)
- ②住吉神社では毎年7月下旬に「水無月祭」が催され、五穀豊穡を祈願し山車を引いた男衆が旧街道を練り歩きます
- ③昭和41(1966)年に昭和を代表する作家・重森三玲(しげもりみ)によって手掛けられた住吉神社枯山水庭園。各所で損傷が目立つようになり、平成29(2017)年から3年かけて地域の皆さんの手によって修復。令和2年2月には県指定文化財(名勝)にも指定されました



住吉神社枯山水庭園「住之江の庭」



水無月祭



年中行事フクノカミ(キツネガエリ)

今に残る 豊かな街道文化

～福住地区の達人が町並みをご案内～
福住町並み案内人グループ

福住町並み案内人グループは重伝建地区の選定を機に、全国各地から観光などで来られた方々に、福住地区の歴史や魅力を伝え、宿場の町並みを案内するため結成されました。現在の会員数は20人。年間約300人の団体を客をボランティアで案内されています。今回、案内時に配布するパンフレット「ふくすみまちなみガイド」を改訂された案内人グループ。このパンフレットで福住の町並みを多くの方に知ってほしいと思います」と話されます。「これからも、福住の歴史やよいところを自分たちで案内でき、そういう人を1人でも多く育てていきたい」と熱い思いを話されました。



細見弥寿博さん(会長)【写真右】
前田磯次さん(副会長)



福住まちなみ保存会会長
森田忠さん

**100年たっても
住み続けたいまちに**

福住地区が重伝建地区に指定されたことで、町並みの整備が進み、1年に大体4・5軒の建物が改修されました。建物の修理が進むにつれて、Uターンして住む方や、その物件を借りて商売をする移住者も現れ、移住者がさらに移住者を呼ぶというようなことも起こっています。そのことで地域が活性化し、福住地区では、明治大学の小田切徳美教授が提唱された「にぎやかな過疎」、にぎやかに動きがある過疎地になりつつあります。

また、福住地区まちづくり協議会には、2030年までに人口を倍増させる「ふくすみ2030プロジェクト」があります。が、人口も少しずつ増えてきています。今後、空き家が増えてくると思いますが、地域の資産としてうまく活用できるような取り組みができればよいですね。100年たっても、住み続けたいといえる地域づくりを今後も進めていきたいと思っています。



この町並みを未来に

重伝建地区選定から10年を迎えた福住地区。これからの町並みやまちづくりへの思いを聞きました。



元福住まちなみ選定
準備委員会委員長
麻田馨さん

当時は、1軒、1軒の空き家の所有者とコンタクトを取り、了解を得るのがとても大変でした。重伝建地区に選定されたときは、ようやくこぎつけたという感じでした。あれから10年がたち、町並みも整備され、空き家もほぼなくなり、よい町になったなあと思います。しかし、福住の町並みを未来につなぐためには、ぜひ無電柱化を実現してほしいと思います。

2016年に小学校の閉校を余儀なくされました。しかし、校舎をカフェや展示室、イベント空間として活用を進めるため、2019年にNPO法人SHUKUBAを設立。教室をアトリエやオフィスに利用したい方に貸し出すなど、現在6組が入居されています。地域を元気にするには、福住の町なかだけではなく、周辺にも配慮するよう、オール福住で取り組んでいく必要があると思います。

NPO法人SHUKUBA 理事長
佐々木幹夫さん



村井真さん
のり子さん

丹波篠山へ移住するきっかけは、以前住んでいた近所のパン屋さんが店を閉め、福住で開店されることを聞いたからです。令和2年9月に家族5人で移住してきましたが、皆さんすごく温かく、親切でとても喜んでいました。現在、3家族の皆さんと一緒に「Let'sまき」というチームをつくり、山の中で放置された倒木をチェーンソーで切り、薪づくりをしています。少しでも山の管理につなげていければと思います。

福住地区を拠点に行政や地域と連携した移住促進・PR企画・マーケティング支援・宿やショップの経営など、多角的に事業をしています。

福住では、地域の方の熱意に後押しされ、この数年で多くの移住者が開業しました。行政や地域の支援に頼りきるのではなく、自立して集客し稼ぐことができ、また地域の将来や町並みの未来を一緒に考えてくれる移住者を増やしていく必要があると思っています。

株式会社Local PR Plan
代表取締役
安達鷹矢さん



10周年記念
フォーラム
丹波篠山市福住重要伝統的建造物群保存地区選定 10周年記念フォーラム
みんなでつくる福住の町並み保存とこれから

とき **11月23日(水・祝) 13:00～16:30**
ところ **旧福住小学校体育館(福住342)**

住吉神社「住之江の庭」特別開放
とき 11月23日(水・祝) 10:00～12:00
ところ 住吉神社「住之江の庭」(川原270)

- **基調講演**
あらためて知る福住のまちなみのすばらしさ 講師 **黒田龍二さん**(神戸大学名誉教授)
 - **パネルディスカッション**
テーマ「福住のまちなみを未来につなぐために～これまでの10年、これからの10年～」
- 申し込み方法 フォーラム前々日までに住所・氏名をメール(bunkazai_div@city.sasayama.hyogo.jp)またはFAX (552-8015)で文化財課までお申し込みください
申し込み・問い合わせ 文化財課 ☎552-5792